

(様式2)

校種	小・中 どちらかに○	学校番号	8	学校名	宇都宮市立 昭和小学校
----	---------------	------	---	-----	-------------

令和3年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

- ・国語では個人差はあるものの、どの領域も正答率が高く学習内容がほぼ身に付いているといえる。「読むこと」に関しては、市の平均正答率を上回るものの、「登場人物の描写を基に捉える問題」で課題が残る。今後重点的に定着を図っていく必要がある。
- ・算数では、市の平均と同程度であり、学習内容がほぼ身に付いているといえる。「変化と関係」の領域が他の領域に比べ低かった。正答率は概ね高いが個人差が見られる。
- ・社会では、市の平均と同程度であり、概ね学習内容が定着しているといえる。「農業や水産業」「日本の政治」の領域では、「国会の働き」について市の平均を下回り、課題が残る。
- ・理科では、すべての領域で市の平均を上回っている。特に「物質とエネルギー」の電流の働き、物の溶け方などの領域では市の平均を大きく上回るなど、学習内容が定着しているといえる。今後も児童が主体的に授業に参加し、科学的思考を養っていきたい。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・「勉強が好きですか」という質問に対する肯定的な回答の割合は、学年によって差が見られるが、低学年で87%以上、中学年で82%以上、高学年で76%以上と望ましい傾向と言える。また、「学校の授業が分かるか」という質問に対する肯定的な回答の割合は市の平均を上回っている学年が多かった。
- ・授業への取り組み（望ましい学習習慣）については、学習や気持ちや態度についての肯定割合が高く、学習への意識の高まりが感じられる。一方、「グループなどでの話し合いに自分から参加している」「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」に対する肯定割合は他の項目と比べ低い。
- ・家庭学習への取り組み状況を見ると、どの学年もおおよそ市の平均と同じような傾向を示している。「宿題をきちんとやり、期限までに提出している」に対して肯定的な回答の割合は90%以上だが、4年生と6年生ではやや市の平均を下回る。また、「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」に対しても4年生と6年生がやや下回る。

(3) 授業等への取組状況から

- ・全体的に学習のきまりや進め方が身に付き、意欲的に課題に取り組むことができる。また、ペアやグループなどでの学び合いを取り入れた学習を意識して行った結果、自分の考えを広めたり深めたりできるようになり、学習の楽しさを感じている児童も増えた。
- ・学習内容を活用した問題では、苦手意識を感じている児童もまだ多い。
- ・自分の考えを表現する力は付いてきており、いろいろな方法を取り入れて伝える力は、高まってきている。しかし、視点をもって聞いたり、根拠を明確にして話したりする力

はまだ十分ではない。

- ・授業のまとめでは、めあてを意識した振り返りを行えるようになってきている。しかし考えの変容を表現したり、既習事項との関連を意識したりする点については個人差がある。

2 今年度の重点目標

- ◎日々の授業において認め励ます指導に努めるとともに、振り返りの学習活動における自己評価や相互評価を工夫し、児童が自らのよさへの自覚を深められるようにする。
- ◎朝の学習や家庭学習を通して復習する機会を設け、基礎・基本の定着を図る。
- ◎学びに向かう力や協働して課題に取り組む態度を身に付けられるよう、ICT等を効果的に活用するとともに、児童が自ら考え分かりやすく表現できる学習活動を重視する。
- ◎「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業研究会や授業を相互に見合う機会を充実し、指導力の向上と新学習指導要領の趣旨を具現化した授業実践に努める。
- ◎問題解決力などの学習の基盤となる資質・能力を、教科横断的な視点で各教科等の関連付けを図るカリキュラム・マネジメントを通して育成する。

3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★、「令和3年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

（1）授業づくり及び教師の指導・支援の工夫（通年）

- ★□○日々の授業において、認め励ます指導に努めるとともに、振り返りの学習活動における自己評価や相互評価を工夫し、児童が自他のよさへの認識を深め、自信をもって学習に取り組めるようにする。
 - 単元（題材）の目標を十分に分析した上で、本時レベルで期待したい児童の具体的な姿を想定してねらいの焦点化を図り、本時のゴールを意識した課題の設定・提示の工夫をする。
- ★□○学びに向かう力や協働して課題に取り組む態度を身に付けられるように「ペア」「小グループ」「全体」など、児童の実態やねらいに応じて学習形態を工夫し、児童同士で情報交換をしたり教え合ったりしながら、互いに認め合い、共に伸びられるようにする。また、ICTを効果的に活用するとともに、児童が自ら分かりやすく表現できる学習活動を重視する。
 - ・主体的に学ぶ児童を育成するため、児童が見通しをもって意欲的に学習に参加し、継続できるよう、授業の流れや進行状況を児童が認識しやすいように示し、学習活動のパターン化やスモールステップ化などの工夫をする。
 - ・既習事項や学習の流れを掲示したり、補助資料やワークシートなどを工夫したり、必要に応じて個別に支援したりして、どの児童も学習活動に意欲的に取り組めるよう支援する。
- ★知識や技能を確実に身に付けられるよう、分かる授業の展開、児童の実態に即した個に応じた指導、各授業や単元等のまとめ学習の充実を図る。

□問題解決力などの学習基盤となる資質・能力を、教科横断的な視点で各教科等の関連付けを図るカリキュラム・マネジメントを通して育成する。

○基本的な学習態度や学習技能を身に付けるため、月ごとに全校共通で学習のきまりを決め、また、その目標を学級の実態に応じて、児童が自分たちで具体化することで意識を高め、全校共通で学習習慣の徹底を図っていく。

□授業研究会や授業を相互に見合う機会を設け、それぞれの授業づくりのポイントやこつを情報共有したり、児童の学びの事実を見取り、それに基づいた授業研究を通して、教師間で学び合ったりすることで、授業力の向上と新学習指導要領の趣旨を具現化した授業実践に努める。

(2) 主体的な家庭学習の習慣作り（通年）

・継続的・計画的に適切な分量・内容の宿題を出し、保護者とも連携しながら、家庭学習の習慣を身に付けられるようにする。

○家庭での自主学習を奨励する。学年の実態に応じた指導・支援を行い、自分に必要な学習について、自分で計画を立て、主体的に家庭学習が進められるようにする。また、参考になるノートを掲示するなどして、内容の高まりが見られるような工夫をする。

★□学校全体の学力アップ月間を年2回設け、計算力や漢字力アップなどのポイントを絞って基礎学力アップを図る。また、家庭学習の記録を活用して、家庭学習の充実を呼びかけたりする。

(3) 各教科における基礎・基本の確実な定着（通年）

・4～6学年全学級の算数科において少人数・習熟度別学習・TTを導入する。児童の実態や単元のねらい、学習効果等を考慮して形態を工夫し、かがやきルームとも連携して計画的に学習を進める。

□○基礎・基本を確実に定着させるための学習の時間を日課表に位置付けて、パワーアップシートなども活用し基礎的な学習内容の復習を行う。また、各学力テストを活用し、学年の課題を明確にし、それらの習得に向けた学習も取り入れる。

□日常の授業において、児童が自主的かつ意欲的に学習できるよう配慮しながら指導支援し、漢字や計算などの基礎的な学習内容の定着を図る。

・読書タイムを日課表に位置付け、読書を奨励するとともに、親子読書の推進を図る。

・話の聞き方・発表の仕方・ノートの取り方など、基本的な学習態度や技能を身に付けさせ、望ましい学習習慣づくりに努める。

・問題解決のために必要な情報の収集・選択とその活用の仕方について支援し、自力解決する力を育てる。

□郷土や地域を愛し、誇りをもつことができるよう、「宇都宮学」の学習を推進するとともに、「道徳科地域教材」を用いた道徳の時間の指導の充実を図る。

(4) 豊かな感性をはぐくむ体験的な学習の推進，家庭・地域・関係機関との連携・協力

・探究的に学ぶ児童を育成するため、体験活動を重視し、その中で、ボランティアティーチャーを積極的に利用し、学習活動をより深いものとする。

□地域や公共機関との連携により、生活科・総合的な学習の時間など、地域の施設を利用した学習を展開する。（八幡山、地域の商店や事業所、公共施設など）

★授業や学習支援の充実のため、学校自由参観日（11月、12月）を設ける。また、学校

の情報を、学校だより・学年だよりやホームページ等で計画的・継続的に発信・提供する。(年間)

★保護者に呼びかけ、早寝早起きの習慣づくりやテレビ・ゲーム、スマホ・ケータイの使い方等の家庭での約束づくりを奨励する。(4月・2月保護者会等)

(5) 確かな学力をはぐくむための指導力向上と授業改善

★□「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業研究会や1人1授業公開等の授業を相互に見合う機会を充実し、指導力の向上と新学習指導要領の趣旨を具現化した授業実践に努める。

・各種学力調査の結果を職員研修の中で分析・活用し、学習に係る課題等を明らかにした上で共通理解を図り学力向上に向けた実効性の高い取組の共通実践に努める。

(6) 情報メディア教育の充実

□校内研修により教師の基礎的な情報活用能力の向上を目指す。

□GIGAスクール構想のもと、児童がコンピュータや情報ネットワークなどのICT環境に親しみ、日常的に活用する能力の育成を目指す。